



「総合力」と「複合力」のさらなる追求へ 1万人規模の情報基盤クラウドを導入

「NSCOCOON」で経営統合への迅速な対応と運用高度化を実現

背景

グループ企業との2度の経営統合に際して、電子メールや社内ポータルといった情報共有基盤システムを刷新・増強する。統合後に全社共通で利用する情報共有基盤を迅速に整備すると同時に、運用を高度化したいと考えた。



日鉄住金テックスエンジニア株式会社
総務部
情報システム室
マネジャー
佐々木 重城氏



日鉄住金テックスエンジニア株式会社
総務部
情報システム室
マネジャー
長田 英之氏



日鉄住金テックスエンジニア株式会社
総務部
情報システム室
齋藤 伸枝氏

NS-TEXENG

日鉄住金テックスエンジニア株式会社

本社：東京都千代田区丸の内2-5-2
創立：1946年
資本金：54億円（2014年3月31日現在）
売上高：連結1557億円（2014年3月期）
従業員数：連結1万1446名（2014年10月1日現在）
グループ会社：子会社14社（2014年3月31日現在）

ソリューション

新たな情報共有基盤システムとして、新日鉄住金ソリューションズの情報基盤クラウド「NSCOCOON」を選択。サーバーなどの冗長化による可用性向上、社員数増加に対応した拡張性の確保、運用のアウトソースを実現する。

成果

約1万人が安定利用できる情報共有基盤が稼働。運用高度化が実現するとともに、IT部門の既存要員を他のコア業務へシフトできるようになった。経営環境の変化に伴う追加のカスタマイズや能力増強も容易になっている。

2度にわたる経営統合に際して、情報共有基盤システムを刷新・強化

「現場力」を活かして、ワンストップサービスを提供する「総合力」と、幅広い技術力をカバーする「複合力」とのシナジー効果により、安全・品質・工期・コスト全てにおいて安心のエンジニアリングを提供する日鉄住金テックスエンジニア。プラント設備のメンテナンスや操業管理などの多様な事業を持つ同社が、「総合力」と「複合力」のさらなる追求に向け情報共有基盤システムの刷新を検討したのは2013年2月である。日鉄住金テックスエンジニアの前身である旧・太平工業と旧・日鉄エレックスは当時、エンジニアリング技術・技能・ノウハウの結集に向けて2013年10月に経営統合を行う計画で、情報共有基盤システムの統合も課題になっていた。さらに日鉄住金テックスエンジニアは2014年10月にグループ7社と2度目の経営統合を計画。ユーザー増加に伴う能力増強が必要になった。

最新製品を採用した情報基盤クラウド「NSCOCOON」を選択

課題の解決に向け、日鉄住金テックスエンジニアは新たな情報共有基盤システムとして、新日鉄住金ソリューションズ（以下、NSSOL）の情報基盤クラウド「NSCOCOON（エヌエスコーン）」を選択した。これは、Microsoft Exchange Server 2013/SharePoint Server 2013といった最新の製品をベースに、電子メールや社内ポータルといった機能を包括的に提供するクラウドサービスである。サーバーなどを冗長化した可用性の高い構成でサービスを提供しながら、ユーザー企業の要望に合わせて運用体制やセキュリティなどをきめ細かくカスタマイズできる。日鉄住金テックスエンジニアは、1度目の経営統合の際にNSCOCOONを全社に導入。さらに2度目の経営統合ではユーザー数増加に伴って処理能力を増強すると同時に、運用をアウトソースした。

1万人の新たな情報共有基盤が計画通り稼働、サービス停止も皆無に

NSSOLはこれら2度にわたる経営統合において、日鉄住金テックスエンジニア向けの環境構築と能力増強、運用設計と運用体制の構築を円滑に実施し、計画通りNSCOCOONの提供を開始。2014年10月以降は、約1万人の社員が電子メールや社内ポータル、全社共通の会議室予約やスケジュール管理のツールとして利用している。2度目の経営統合ではユーザーが倍近くに増えたが、障害によるサービス停止はまったくない。また、運用をアウトソースしたことで運用高度化が実現。日鉄住金テックスエンジニアの情報システム室は既存要員を他のコア業務へシフトし、より幅広い仕事を行うことが可能となった。今後は、NSCOCOONの利用範囲を拡大するとともに、より安全でより利便性の高い情報共有基盤に進化させていく計画である。

Key to Success

日鉄住金テックスエンジニアが情報共有基盤システムを刷新・拡張した背景は、2度にわたる経営統合に対応するとともに、以前のシステムのサポート切れに対応することであった。

総務部 情報システム室 マネジャーの佐々木重城氏は「2013年10月以前の情報共有基盤システムは、旧2社が別々に構築したもので、サポート期間も残り少ないという課題がありました。経営統合に合わせて、サポート期間自体がより長く、最新のプロダクトを活用して、新たな情報共有基盤を導入したいと考えました」と語る。

日鉄住金テックスエンジニアが複数のソリューションから選択したのが、Microsoft Exchange Server 2013/SharePoint Server 2013をベースにした、NSSOLの企業向け情報基盤クラウド「NSCOCOON」である。

佐々木氏は「最新の製品を採用し、2013年10月の1度目の経営統合までに、確実にサービスの提供を開始すると明言したITベンダーはNSSOL以外にありませんでした」と振り返る。

当時、Exchange 2013/SharePoint 2013を数千人規模で導入した例は国内にほとんどなかったが、NSSOLは短期間に製品の詳細な特性を把握。10月には計画通りサービス提供を始めた。

「NSSOLは当社向け環境の構築中に見つかった課題を、マイクロソフトと連携して迅速に解決しました。技術的なトラブルへの対応と進捗管理のいずれもが優れていると感じました」（同）

2014年10月の2度目の統合では、ユーザー数が約4000人増え、1万人を超すと予想されたため、システムの処理能力増強が不可欠になったが、NSSOLは本番稼働に影響を与えずに、リソ-

ス増強と機能追加を行った。

このとき、日鉄住金テックスエンジニアは、運用委託範囲も拡大している。NSCOCOONでは運用委託範囲をユーザー企業が選択できるため、当初は日鉄住金テックスエンジニアが直接、ミドルウェアの運用を行っていたが、最終的にNSSOLへ全て任せている。

NSSOLへの運用委託範囲を拡大 専門家による高度な対応が可能に

総務部 情報システム室 マネジャーの長田英之氏は「当初はエラーメッセージのメールを全て見ていましたが量が多く、また社内に見ても少ないことから、適切に対応することが困難でした。運用をアウトソースした後は、こうしたエラーメールへの対応をプロに任せることが可能になり、とても安心

しています」と述べる。

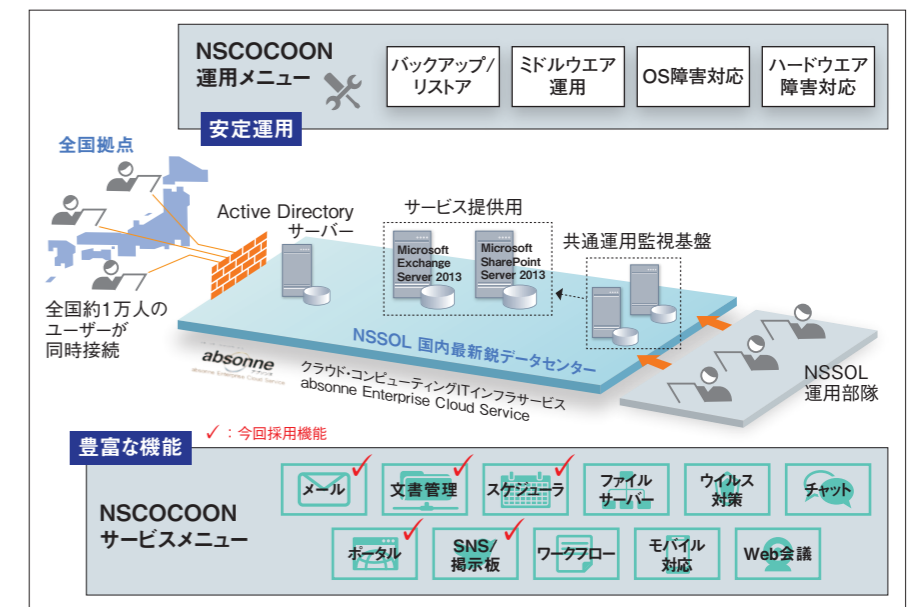
システムの安定性に対する評価も高い。佐々木氏は「システムが障害で停止したことは1回もありません。そのおかげで情報システム室の仕事を、経営統合につながるコア業務へシフトすることができ、業務的にも柔軟な対応ができました」と語る。

日鉄住金テックスエンジニアは今後、NSCOCOONの利用範囲をさらに拡大していく。

総務部 情報システム室の齋藤伸枝氏は「以前の情報共有基盤システムのアプリケーションが多数残っています。NSCOCOONの環境へ順次移行していきたいので、NSSOLに提案をお願いしたいと思います」と語る。

佐々木氏は「NSCOCOONは豊富な機能を備えながら、カスタマイズも柔軟にできる点が魅力です。追加のカスタマイズによって、今後も安全性と利便性を追求していきます」と述べる。

日鉄住金テックスエンジニアが導入した「NSCOCOON」の概要



コアテクノロジー

運用アウトソーシング、Microsoft Exchange Server 2013、Microsoft SharePoint Server 2013、Microsoft System Center 2012 R2、サポート切れ対策

システム概要

●情報基盤クラウド：NSCOCOON（エヌエスコーン） ●ユーザー数：約1万